

平成27年度 主題研修

「研究のまとめと今後の方向性」

北九州市立光貞小学校
主題推進委員会

平成15年度～平成27年度
豊かな心を持ち、よりよく生きようとする
子どもを育てる道徳教育

総合単元的な道徳学習

- 道徳の時間を要とした各教科・領域との関連
- 道徳の時間における
道徳的価値の補充・深化・統合
- 道徳の時間を意識した他教科・領域の指導

道徳の時間における指導方法の工夫と充実

- 指導過程の工夫 ○魅力的な資料の開発と活用
- 指導体制の工夫 ○表現活動の工夫
- 書く活動と話し合う活動を位置付けた学習展開

学習の足跡の掲示

- 毎週の道徳の時間の地道な実践
- 学習の足跡の教室掲示と日常での活用
- 学年掲示や「ころあつたかの木」の掲示の活用

家庭・地域への啓発

- 学習参観における道徳の時間の実践

平成25年度からは・・・
道徳の時間のねらいに迫る、言葉を生
かし考えを深める指導法の研究

- (1) ねらいに迫るための視点を明確にした表現活動の活性化を図る指導・支援の工夫
- (2) 道徳の時間のねらいと生活場面を結び、考えを深め、価値付けを図る指導・支援の工夫

【重点課題】展開後段の生活を振り返る場面において表現活動を位置付け、子ども一人一人が道徳的価値の自覚を深めるための手だての工夫

◇ 道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫

◇ 道徳的価値の自覚を深めるための「書く活動や話し合う活動」の手だての工夫

- (3) 組織的な取組と道徳の時間を要とした道徳教育の充実

平成27年度の教育研究論文研究主題
道徳の時間のねらいと生活場面を表現活動を通して結び、道徳的価値の自覚を深める指導法の研究

第5学年の取組

主題名：かけがえのない命

内容項目：高3一(1) 生命はかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

資料名：「命」(出典「みんなのどうとく5年」 学研)



ねらい 宮越由貴奈さんが詩を書いた思いや自分にとっての「精一杯生きる」ということを考える活動を通して、命がかけがえのないものであることを知り、進んで自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

【手だて①】 道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫

- ◇ 自分の生活を振り返る場面で、「精一杯できたことやがんばったこと」「誰かが生まれたり亡くなったりした時のこと」など、**具体的な視点を提示**することで、ねらいとする道徳的価値に向かって振り返りができるようにする。
- ◇ 終末では、1学期に学習した理科「**生命のつながり**」における**全員の共通体験について触れること**で担任の妻の手紙との**結び付けを図り**、かけがえのない自他の命を大切にしようとする道徳的実践意欲を心の中で温めていくようにする。

【手だて②】 道徳的価値の自覚を深めるための「書く活動や話し合う活動」の手だての工夫

- ◇ 展開後段において、**自分の考えを書く活動を取り入れ**、**命の大切さを感じた経験など自分の生活を振り返りながら**、「自分にとっての『**せいいっぱい生きる**』ということ」という視点で**記述**するようにする。
- ◇ 書いた後に**班→全体で話し合う活動を取り入れ**、**多様な考えに触れるとともに**、**ねらいとする道徳的価値を追求し**、**自覚を深めるようにする**。考えを交流する際に、友達の考えのよいところなどをワークシートに記述する。

<成 果>

- 生活を振り返る視点を明確にした上でワークシートに記述したことで、親類が亡くなった時の気持ちや今後に向けての誓いなど、ねらいとする道徳的価値に沿った振り返りを具体的に記述できていた。
- 終末において、理科の学習と担任の妻の手紙との結び付けたことで、かけがえのない自他の命を大切にしようとする道徳的実践意欲を心の中で温めていくことができた。
- ワークシートに友達の考えをメモできる欄も設け、話し合い活動を通じて、自分の考えに修正・加筆できるようにしたことにより、今後の生き方をなかなか記述できなかつた児童が、話し合い活動の後に今後の生き方を記述することができた。

<課 題>

- 生活を振り返る視点を工夫・精選するなど、過去についてだけでなく、未来について前向きに考えるための手だてが必要であった。
- 話し合い活動における手だての再考が必要であった。

第2学年の取組

主題名：友達の気持ちを考えて

内容項目：低2ー(3) 友達と仲良くし、助け合う。

資料名：「およげない りすさん」

(出典「わたしたちの道徳」小学校1・2年 文部科学省)



ねらい りすさんやかめさんの気持ちを考える活動を通して、友達と仲良く助け合うことの大切さを知り、友達を大切にしようとする心情を育てる。

【手だて①】 道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫

- ◇ 自分自身を振り返るために、「友達の気持ちを考えて助けたり、手伝ったりした経験はありますか。その時の気持ちを考えましょう。」と発問し、体験を互いに聞き合うことで、ねらいとする道徳的価値の自覚をより深いものにする。
- ◇ アンケート結果を活用することで、限定された場面ではなく、多様な体験を想起できるようにする。

【手だて②】 道徳的価値の自覚を深めるための「書く活動や話し合う活動」の手だての工夫

- ◇ 展開後段では、自分の生活を振り返り、友達と仲良くして楽しかったことやうれしかったことを、「わたしたちの道徳」P.77に書く活動を設定することで、道徳的実践意欲を高めるようにする。
- ◇ みんなに認められ、クラスの一員として友達と仲良くできているんだという自覚を高めるために、友達のことを考えて行動したときの思いを書いた「宝物カード」を掲示する活動を継続的に取り組むようにする。

<成 果>

- 事前に、「友達の気持ちを考えて助けたり、手伝ったりした経験はありますか。」とアンケートを行った。本時のねらいに沿って「友達にしてあげたこと」に視点を当てて想起したことで、生活の振り返りでは、音楽会の友達に鍵盤ハーモニカやハーモニカを教えた経験を話す子どもが多く見られた。
- 生活の振り返りにおいて、「わたしたちの道徳」を活用した。事前のアンケートの中から教師が例を提示したり、その時の気持ちを児童に聞き直したりしたことで、容易に書くことができた。
- 「宝物カード」の活用により、児童は、毎日教室に掲示してある宝物箱を嬉しそうに読み、友達と助け合うことよさを感じ、さらに助け合っていこうとする意欲を高めることができた。
- ペアで話し合うことで、相手の顔を直接見て自分の考えを伝えることができ、苦手な児童も自信をもって話すことができた。また、教師の問い返しや価値付けで、自他のよさをさらに自覚することができた。

<課 題>

- 「宝物カード」に書く際に、その時の気持ちも書くようにしたが、朝の会や帰りの会等で紹介する時間を取り、継続して取り組む手だてが必要であった。
- 家庭との連携を図り、すべての生活場面で道徳的価値を価値付けし、自覚を深めていく必要があった。

第4学年の取組

主題名：自分のよい所をのばして

内容項目：中1－(5) 自分の特徴に気付き、よい所をのばす。

資料名：「おさかな大すき、さかなクン」(出典「4年生の道徳」文溪堂)



ねらい さかなクンの心情を考える活動を通して、自分のよい所に気付いてよい所を伸ばそうとする心情を育てる。

【手だて①】 道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫

◇ 生活を振り返る場面では、事前のアンケート、席替えの際に続けていた「あったかメッセージ」や帰りの会の「今日のキラキラ」などで把握した実態を活用して、必要に応じて助言ができるようにしておく。

◇ 終末で「あったかメッセージ」を手渡すことにより、友達が気付いた自分のよさを知り、客観的に自分の特徴に気付いて自分のよさを大切に、よいところを一層伸ばしていこうという態度を育てるようにする。

【手だて②】 道徳的価値の自覚を深めるための「書く活動や話し合う活動」の手だての工夫

◇ ワークシートに書く際に、長所をどんなふうに伸ばしていきたいかという視点で書くようにする。書き方の例を挙げて今後の自分の姿をイメージできるようにし、実践意欲を高めるようにする。

◇ 中心発問でさかなクンの情熱について話し合うときには、話し合いメモを活用する。無理にまとめる必要はないことを伝え、一人一人がつぶやいた言葉を生かして、考えを広げたり深めたりする手がかりにする。

<成 果>

- 特技的なことにとどまらず性格的なよさ、その人らしさも長所ということを定義付け、例を挙げこと、事前のアンケート、「あったかメッセージ」や帰りの会の「今日のキラキラ」などで把握した実態を活用して助言したことで、イメージがより明確になったと思われる。ワークシートには、一つだけでなく、複数の長所を書いていた子がほとんどだった。
- 終末で、班の友達が書いた「よいところ」を手渡した。受け取ったときに表情がぱっとやわらぎ、「自分では気付いていないよさを見つけてくれてうれしい。」という感想が聞かれた。自分にはいいところがある、これからも伸ばしていきたいという気持ちが高まったと考えられる。
- 好きなことの紹介や好きな理由の説明をするのではなく、自分にある「よさ」をこれからのようにしていきたいか視点を明確にし、「これからも」という言葉をキーワードにして書いたことで、よさを伸ばし、チャレンジしようという気持ちが表れていた。
- 話し合いの中で考えを深めたり広げたりするために、話し合いの足跡として、話し合いメモを活用した。自由な雰囲気の話し合いを好むようになり、話し合いが活発になった。

<課 題>

- 資料から早く離れて、教師が問いかける課題解決型の授業でもよかった。そうすることで、展開後段に時間をかけることができる。
- 児童の発言に対して、教師が問い返しをしてより深めたり、共感していくことで全体に広げていったりすることが必要であった。
- 話すことや書くことが苦手と思っている児童の数は少ないとは言えないので、より明確な学習の視点を示すなどして、抵抗感を取り除けるような授業を工夫していく必要がある。

第1学年の取組

主題名：みんなのことを考えて

内容項目：低4－(1) 約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にする。

資料名：「どうして そうするの」(出典「どうとく1年」 光村図書)



ねらい りすおくんの疑問を一緒に考える活動を通して、約束やきまりを守ることのよさに気づき、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。

【手だて①】 道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫

◇ 導入において、資料と同じ傘置き場の写真を提示して振り返ることで、資料の中でも、実際の生活場面を想起しながら考えることができるようにする。

◇ 展開後段においては、靴箱や教室移動など約束やきまりを守っている様々な生活場面の写真を提示することで、具体的な生活場面をイメージしながら、約束やきまりを守る姿を振り返り、ねらいとする道徳的価値を自分の中に自覚することができるようにする。

【手だて②】 道徳的価値の自覚を深めるための「書く活動や話し合う活動」の手だての工夫

◇ 展開後段では、守らなければいけない約束やきまりや、その理由を考えて二人組や全体で話し合ったり、気付いたことをハート型のカードに書いたりすることで、友達の多様な考えに触れ、約束やきまりを守るよりよい自分の姿をとらえて、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるようにする。

<成 果>

- 「どうしてそうなの」と、問いかけることでその行動を振り返り、自分の問題として考えさせることができた。また、ねらいに迫る行動をとっている自分たち姿の写真を提示したことで 自分たちにも同じ姿があることに気付かせることができた。
- 約束やきまりについて気付いたことをカードに書く活動を継続し、教室に掲示することで、約束やきまりを守ろうという実践意欲を高めた。
- 二人組で話し合い、自分の考えを人に伝えることができた。また、課題の理解を深めるため、具体的に多くの事例を話し合いで考えた。そのため、きまり見付けの時には、すぐに書き始めることができた。
- 書く活動を生活を振り返る場面に設定し、右にきまり、左にその理由を書くようにしたことで、書く内容が分かりやすくなり、どの子もきまりとその理由について考えることができた。

<課 題>

- 資料の学習をスピーディーにし、生活場面の振り返りや話し合いに時間が取れるようにする。
- 動作化や役割演技をする際には、時間と場所を確保する必要がある。検証授業では、役割演技を見る側の児童が状況を理解しやすく多様な意見が出た。

第3学年の取組

主題名：すなおな心で

内容項目：中1－(4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。

資料名：「けいちゃんのおすれもの」（出典「新しいどうとく3年」 光文書院）



ねらい 正直に話そうかどうか迷っているよしおの気持ちを考える活動を通して、うそをついたりごまかしたりせず、正直に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

【手だて①】 道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫

- ◇ 学校生活で過ちを素直に認めて正直に行動できた子どもを見逃がさず賞賛し、ねらいとする価値のよさを感じることができるようになる。また、事前のアンケートの結果や「心すっきりカード」などから児童の実態を把握しておくようにする。
- ◇ 導入において、うそをついたりごまかしたりした経験を想起し、うそをついた理由やその時の気持ちを話し合うことにより、ねらいへの意識付けを図るようにする。また、中心発問においても、導入の振り返りを生かすようにする。終末においては、児童の経験を紹介することで、実践意欲を高めていけるようにする。

【手だて②】 道徳的価値の自覚を深めるための「書く活動や話し合う活動」の手だての工夫

- ◇ 葛藤場面において、どのような行動をとるのかを考え、その理由を少人数で意見交流を行う。その際、話し合いカードを使って自分の考えを明確にできるようにする。友達の発言を聞く時には、自分の考えと同じ点や違う点を比べながら聞くことで、多様な考えに触れ、自分の考えを広げていけるようにする。
- ◇ 展開後段では、よしおに向けて、自分の経験を踏まえて手紙を書く。振り返りができない児童には「心すっきりカード」を紹介することで、自分の経験を振り返ることができるようにし、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めるようにする。

<成 果>

- 事前のアンケート結果や「心すっきりカード」で把握した実態を活用したことにより、児童は日常の経験を振り返り、自分の弱い部分にも触れた発言が見られた。
- 中心発問において、「もし自分だったら・・・」と問いかけたことで、自分自身の問題としてとらえ、価値に迫る話し合いができた。
- 終末においては、正直に話してよかったという友達の作文を聞くことで、自分もうそをつかないで正直でいたいという思いをもつことができた。
- 展開後段で、自分の経験を踏まえてよしおへの手紙を書く活動を取り入れたことで、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができた。
- 話し合い活動では、心情ハートを使って自分の考えを明確にできた。また、友達の考えを聞いて自分の考えを変え、うそやごまかしをせずに正直に行動するという、ねらいとする道徳的価値へと考えを深めることができた。

<課 題>

- 展開後段の手紙を書く活動において、「心すっきりカード」の活用の工夫など自分の生活を振り返らせるための手だてが必要であった。
- 主人公の立場になって話し合ったことを自分の生活と結び付け、手紙に反映するために、板書や発問の工夫が必要であった。気持ちが変わった児童に、なぜ気持ちが変わったのかを聞くと、より話し合いが深まり、ねらいとする道徳的価値に近づくことができたと思われる。

第6学年の取組

主題名：真の友情とは

内容項目：高2ー(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力して助け合う。

資料名：「ロレンゾの友だち」(出典「みんなで考える道徳6年」 日本標準)



ねらい 3人の友達のロレンゾに対する思いを考える活動を通して、互いに理解し、信頼し合って、より友情を深めていこうとする心情を育てる。

【手だて①】 道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫

- ◇ 導入において、「友達との思い出には、どんなことがあるか。」という発問をして、その思い出から友情について意識できるようにする。また、**事前の生活アンケートを実施し、その結果から児童の実態を把握**しておくようにする。
- ◇ 展開後段の生活振り返り場面において、**事前のアンケートの結果から、児童が友達との信頼の元で、磨き合い、高め合っていることに気付くことができる**ようにする。一方で、友達関係で悩みをもっている児童が多いことにも触れて、友情を深めるために何を大切にしたらよいかについて考えられるようにする。

【手だて②】 道徳的価値の自覚を深めるための「書く活動や話し合う活動」の手だての工夫

- ◇ **資料と自分の生活と結び付けて一般化を図るために「友情を深めるために、何を大切にしたらよいか。」という発問**をする。また、**事前のアンケートから普段の友達との関わり方の様子や悩みを紹介**することで普段の自分を想起できるようにする。**書く活動や話し合う活動を通して、これからの友達との関わり方をどうするべきかを、問いかけながら考える**ようにすることで、自分の友達との関わり方を肯定的にとらえることができるようにする。また、これまでの生活で友情関係を築けている児童については、理想の友達との関わり方が、今の自分にも同じように経験したことがあると感じることができるようにする。

<成 果>

- 自分の考えに一番近い考えの登場人物を選び、立場討議を行った。そのように考えた理由や心情を、自分の経験と重ねながら考えたことにより、ロレンゾを心配し、自分にできることを真剣に考える友情の深さに共感することができた。
- 生活を振り返る活動では、事前の生活アンケートから修学旅行や音楽会などの様々な場面で、友達を励まし励まされたこと、助け助けられたこと、協力したことなどを振り返った。資料ほどの友情は築けていなくても、その種や芽は自分たちにもあるのだと、今できていることを自覚することができた。
- 「より深い友情を築くために大切にすることは何か」について考えを書き、話し合う活動を行った。友情についてのよりよい生き方について考えを多様化することができ、ねらいとする道徳的価値の自覚をさらに深めることにつながっていった。
- 終末においては、話し合ったを生かして、具体的な事例について考え、グループで話し合った。実際の友達との関わり方や友情の深め方について考えることができ、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができた。

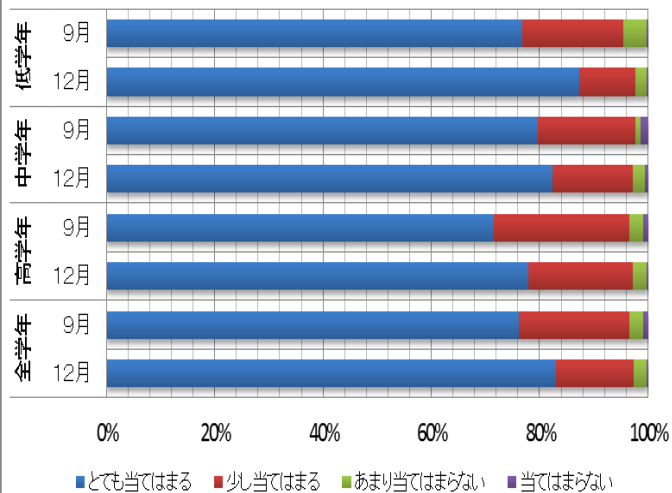
<課 題>

- 展開前段において、ねらいに迫るために立場討議を取り入れたことで、十分な時間を確保することができなかった。2時間扱いなど、柔軟に指導計画を立てて実践することが必要であった。
- 「さらに友情を深めるためには何が大切か」と問いかけたが、よりよい自分について考えたことで、自分の課題に目が向いてしまった。足りないところばかりでなく、「よいところを伸ばす」という視点を明確にして考えていく配慮も必要であった。

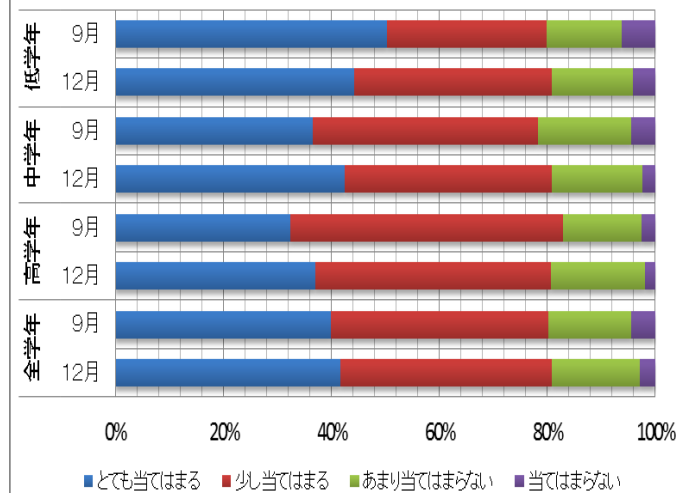
研究の成果

(1) 「道徳の時間についてのアンケート」から見える児童の変容

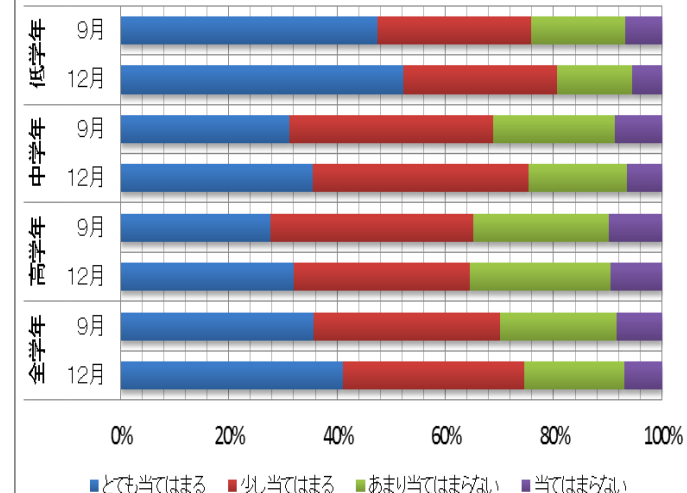
①道徳の時間の学習は大切だと思いますか。



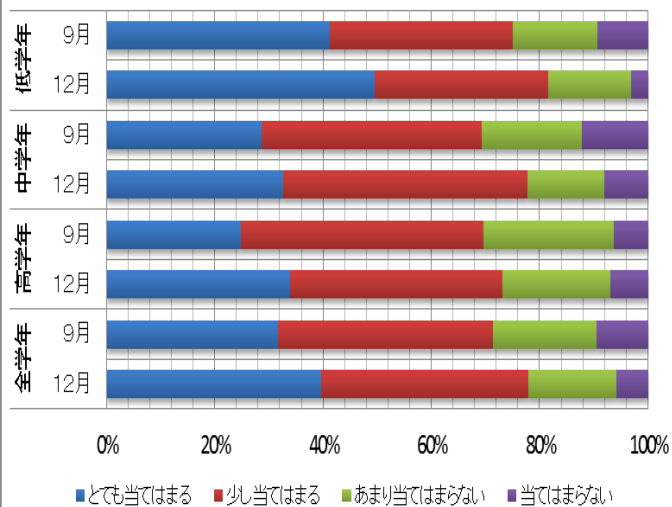
②友達と話し合うことは好きですか。



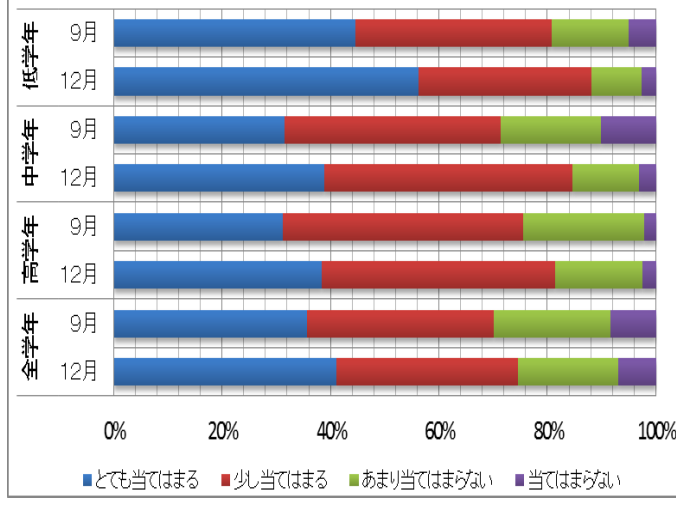
③ワークシート等を書くことは好きですか。



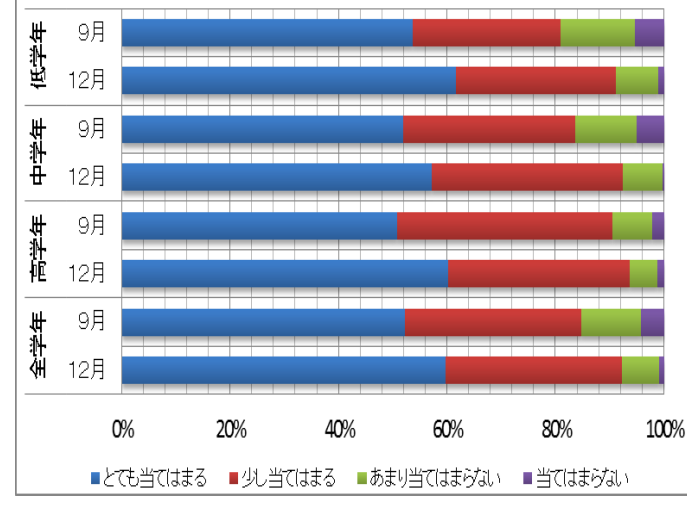
④生活を振り返り、自分のよところを見付けることができますか。



⑤よりよい自分や生き方について考えることができますか。



⑥大切なことを学ぶことができますか。



- ほとんどの設問項目で、9月より12月の方が、「とても当てはまる」「少し当てはまる」の割合が増えている。
- 特に、「①道徳の時間の学習は大切だと思いますか。」「④生活を振り返り、自分のよいところを見付けることができますか。」「⑤よりよい自分や生き方について考えることができますか。」「⑥大切なことを学ぶことができますか。」の設問については、全学年とも、「とても当てはまる」「少し当てはまる」の割合が増加していた。**道徳の時間のねらいと生活場面を結び付けて振り返り、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めたこと、よりよい生き方を考え、ねらいに対する道徳的実践意欲を高めたことがうかがえる。**

これらのことから、「道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫」を着眼点として、「事前アンケートや写真等を活用した、生活をより深く振り返るための手だての工夫」「展開後段の生活を振り返る活動における『書く活動や話し合う活動』の手だての工夫」の2点の手だてを実践したことで、**道徳の時間のねらいと生活場面を表現活動を通して結び、道徳的価値の自覚を深めることにつながった。本研究の仮説実証のための着眼および手だてによって高められたことがうかがえる。**

(2) 【手だて①】 道徳の時間のねらいに沿って、自分の生活をより深く振り返るための手だての工夫

- 事前アンケートや学級での取組、学習の様子などから、道徳のねらいに沿って児童の実態を把握した。**把握した児童の実態をアンケート結果や写真、友達からのメッセージ等にフィードバックして道徳の時間の指導に生かしたことにより、生活をより深く振り返るための手だてを工夫することができた。**
- 本時の道徳のねらいに沿った生活場面の写真を活用して、生活を振り返る手だてにした。導入、資料、展開後段の生活を振り返る活動と**繰り返し写真を見せることで、1時間の道徳の時間を通して、生活場面と結び付けながら考えることができた。**これにより、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができた。
- 帰りの会の「今日のキラキラ」の取組や友達からのメッセージ「あったかメッセージ」などを活用して、生活を振り返る手だてにした。展開後段においては、帰りの会の**「今日のキラキラ」の取組や友達からのメッセージ「あったかメッセージ」などの内容を基に、振り返りのできない児童について個別にアドバイスをしたりすることで、道徳の時間のねらいと生活場面を結び付けながら考え、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができた。**
- 事前の生活アンケートや学校行事の写真を活用して、生活を振り返る手だてにした。導入においては、**児童の共通体験を写真で提示し、そのときの様子や気持ちを話し合うことにより、ねらいへの意識付けを効果的に行うことができた。**また、展開後段においては、**生活アンケートの結果を提示して経験を想起したことにより、自分の中にあるよさに気づき、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができた。**

(2) 【手だて②】 道徳的価値の自覚を深めるための「書く活動や話し合う活動」の手だての工夫

- 展開後段の生活を振り返る活動において、**道徳の時間のねらいと生活場面を結び付けた上で書く活動を取り入れたことにより、児童は自分の内面を見つめ、自分の中にある、ねらいとする道徳的価値に気付いて、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めたり、よりよい自分の在り方を考えて、実践意欲を高めたりすることができた。**
- 展開後段の生活を振り返る活動において、**道徳の時間のねらいと生活場面を結び付けた上で話し合う活動を取り入れたことにより、児童は自分の内面を見つめ、自分の中にある、ねらいとする道徳的価値に気付くとともに、友達の多様な考えに触れて、自らの考えを広げたり深めたりしながら、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができた。**また、よりよい自分の在り方を考えて、実践意欲を高めたりすることができた。
- 展開後段以外の学習活動においても、**効果的に表現活動を取り入れたことにより、ねらいとする道徳的価値に迫ることができた。**

今後の課題

本研究を通して、以下2点の課題が明らかになった。

- 「④生活を振り返り、自分のよいところを見付けることができますか。」では、9月と12月を比較すると、高学年になるほど、「とても当てはまる」「少し当てはまる」の割合は減少する傾向にあった。これは、高学年の発達段階として自己評価が厳しくなっていることもあるが、よりよい生き方を考える際に、自分のよさを生かすのではなく、自分に足りないところを改善しようという視点で考えていることが原因の一つとして考えられる。**生活を振り返ったことにより気付いた自分のよさを生かしながら、よりよい生き方を考えていく手だての工夫を考える必要がある。また、道徳の時間のねらいと生活場面を結ぶ手だてを増やし、児童の発達の段階に応じた手だてを工夫していく必要がある。**
- 「②友達と話し合うことは好きですか。」「③ワークシート等を書くことは好きですか。」では、9月と12月を比較すると「とても当てはまる」「少し当てはまる」の割合はほぼ変わらず、8割を下回っている学年もある。**書く活動や話し合う活動の活性化を図り、児童が意欲的に取り組む表現活動の指導・支援の工夫を追究していくことが、ねらいとする道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践意欲を高める道徳の時間につながると考える。**

これからの道徳教育 「特別の教科 道徳」に向けて

平成27年度から移行措置
平成30年度から完全実施

【道徳化の授業を行う上で大切なこと】

- ①道徳科の目標を意識して！
◇道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる
- ②明確な目標(めあて)を！
- ③基本を大切に、基本形にとらわれるな！
(導入・展開前段・展開後段・終末の指導過程)
- ④実態を知っているのは担任！

【教科化に向けてのポイント】

- 問題解決的な学習の工夫
 - ◇1年「どうしてそうなるの？」の問いかけ
 - ◇6年「友情を深めるために大切なことは？」
- 言語活動の工夫
 - ◇「書く活動」と「話し合う活動」
- 体験的学習等を取り入れた工夫
 - ◇役割演技や動作化
 - ◇スキルトレーニング
 - ◇他の教育活動との関連
「道徳の時間と生活場面を結ぶ」

**本校のこれまでの道徳教育の研究を生かして
1時間1時間の道徳の時間を地道に**